

## 第1回 水木しげる記念館再整備基本構想・基本計画検討委員会

- ◆日時 令和3年8月31日(火) 15:30~17:10
- ◆場所 Zoom・境港市役所第5会議室
- ◆議事概要 以下のとおり

### 3. 委員長の指名/4. 副委員長の指名

- ・委員長：細田氏、副委員長：古橋氏を指名

### 検討事項等

#### 5. 検討事項等

##### 【説明】

- 今回の資料はあくまで仮説であり、委員からの意見を入れ込み基本構想を作っていく。

##### 【質疑・意見】

#### <②現状施設の課題整理>

- ・ 学芸員が不在であることが現状の課題。コアなファンへの対応や、子供たちの自由研究への対応、滞在時間を長くするための魅力ある展示づくり、環境整備のためには、プロの視点が必要となる。記念館の運営を支えるプロを育成する視点を含めた基本構想としていただきたい。
- ・ カフェなどの地域住民が集えるスペースが少ない。
- ・ 境港の子供たちは「妖怪学」を学んでいるが、その学習のために記念館が活用されていない現状がある。
- ・ 原画資料が非常に素晴らしかったが、山陰地方は湿気が多いため、原画の保存環境には留意する必要がある。
- ・ 小さい子供には難しい展示が多いように感じられた。解説を読ませるだけでなく、音声等をより活用するなど工夫が必要。また妖怪に関する解説が少なく、小さい子供もわかる解説必要と感じた。
- ・ 展示スペースが狭く、感染症予防の観点では密に感じられた。
- ・ 団体客が利用できるスペースが不足していた。
- ・ 現状の記念館は年間20万人が訪れ、全国的に見ても集客力のある施設である。一方で、ロードを訪れる人のうち、記念館へ来館する人は約1割。「一度来館しているから入らなくてよい」と考える方が多いためである。まずは、市民の方が繰り返し訪れたい施設を目指す必要があると考える。
- ・ 現在の運営体制では、長期にわたって継続的に勤務する職員がいない。原画を保存・展示するためには、専任の学芸員が必要となる。その他のスタッフについても、長く勤務する中で作品に関する知識を深めていただけるような、安定した雇用体制にしていきたい。
- ・ 今後、原画を収蔵・展示するならば、保存環境の調整や、展示替えにおいて専門知識を有す

る学芸員が必要となる。

<③先進事例の報告>

- ・ 足立美術館、小泉八雲記念館、呉市海事歴史科学館は、どの施設も整備が非常に整っている印象であり、このような施設を目指していけると良い。
- ・ 先進事例の報告では、ミュージアムが中心であったため、テーマパーク性のある施設についても調べていただきたい。

<⑥基本方針>

- ・ 観光地としての水木しげるロードの課題は、体験できるものが少ないことである。「水木しげるフィールド」の考え方は良いと思う。境港には、妖怪が出てきそうな懐かしさがまだ残っており、施設だけではなく街全体で、先生が描いた世界観を体感する体験につながると良い。
- ・ 資料の収集保存や展示替えも強化していただきたい。
- ・ 境港市内にとどまらず圏域との連携を進め、境港を拠点として圏域の観光振興につながるランドマークとなる施設を目指してはどうか。
- ・ 先月大雨が降ったが、今後の環境変化によって収蔵品が傷まない環境整備が必要。
- ・ 水木しげるロードには、少年雑誌・コミック・アニメで水木作品に触れて育った世代が孫や子供を連れて訪れる。より滞在時間を長くするために、例えば、デジタルコンテンツで漫画を読むことができるなど、3世代で一緒に見て楽しみ、会話が弾むような環境整備をしていただきたい。
- ・ 記念館の近くには、子供たちの学習の場としての可能性がある境水道や島根半島がある。これらと一体化するような記念館としていただきたい。
- ・ 境港市民の方々が集える市民交流の場としての方向性としていただきたい。
- ・ 水木先生が伝えてきた妖怪を未来につなぐ施設として、例えばプロジェクションマッピングを取り込む等、子供たちが楽しめる工夫を取り入れていただきたい。
- ・ 市場には、夏休みの宿題や社会科見学のために訪れる方が多い。記念館・ロード・港がつながるような見学コースができると良い。
- ・ 現在のアニメでは、水木先生の作風とは異なる絵で表現されている。今・昔の絵の違いを比較して見せると良いと考える。
- ・ 基本方針を検討するうえで、「2. 活動の方針」「3. 連携の方針」は、記念館を中核とした連携の形や、地域の各組織でなにかができるかを検討していく必要がある。
- ・ 水木先生の戦争体験や平和教育の要素を取り入れると、修学旅行で立ち寄っていただける等、持続的な集客につながる施設になると考える。
- ・ この先100年の施設づくりを考えると、容易に更新できる展示の工夫が必要である。
- ・ 作品世界を実際に味わえる土地として、施設の中で再現するのではなく、市内を周遊していただけるような工夫が大切。
- ・ 水木しげる記念館は、美術館や博物館というよりはテーマパークに近い性格があると考えられ、ミュージアムの機能とテーマパーク性のバランスを検討する必要がある。

- ・ ミュージアム機能に比重を置く場合、リピーター獲得につなげるためには、定期的な企画展や常設展示の展示替え等、検討が必要となる。

<⑦基本コンセプト>

- ・ 5つの事業計画について、各項目が融合するような形になると非常に良いと思う。
- ・ 水木先生の世界観のもとには、日本人が大切にしてきた温故知新の価値観がある。永続のためには、常に新しさを求めるだけでなく、古さも大切にしたい。「新しい出会い」だけでなく、古さや懐かしさの観点もコンセプトに取り入れてはどうか。

<その他>

- ・ 休館期間中の取り組みについても、本検討委員会の中で議論していく必要がある。
- ・ 災害時には、防災拠点として市民の避難場所にもなる建築のあり方を検討いただきたい。

○[事務局]記念館の強みは黒字がベース。原画の取扱いや人の配置などについて、どこまでできるか、今後の事業費などを踏まえて、検討課題とさせてもらいたい。

**6. その他**

第2回検討委員会 10月上旬～中頃を予定。